



by 松尾高司 (KAI project)

天然レザーグリップは プレーヤーを本気にさせる

世間はオーバードライブを巻くのが当たり前という時代になつてはいるが、天然レザーグリップの需要も意外や意外、結構ある。

昔からのベテランプレーヤーにとって、あのしっとりした握り感覚は「ああ、オレは今、グリップを握っている」という充実感を与え、猛烈スイングではなく、面を作ってコントロールするタイプには、面の状態をしつかり伝えられる特徴がある。

『PKウエスト』の天然グリッププレーヤーに使用されるのは「カーフスキン」という、牛革の中で最高級グレードの皮革素材。「カーフ」というのは、生後6カ月以内の仔牛の皮革で、キメが細かくて柔らかく、伸縮性もある。生後1年以内の牛革を「キップスキン」、2年以内の雄牛のものを「ステアハイド」、雌牛のものを「カウハイド」といい、加齢ごとに硬くてキメも粗くなってゆく。この最上級のカーフスキン素材から、1m以上もあるグリッププレーヤーの長さ分を確保できる皮革部位は、非常に限られてしまう。適度な伸縮性を得るには皮革の方向性も限られ

テープ全長に渡って均一な質感でなければならぬからだ。

そうした希少価値のレザーを使用するため、使い捨てのオーバードライブとは価格に大きな違いがある。それでも天然レザーのフィリングを愛するプレーヤーにとっては、価格よりも大きな価値を持つのが、天然グリッププレーヤーなのである。

ちよつと厚めで、滑らない！ PKウエストのオリジナル

さて、筆者がこのアイテムに注目したのは、この品質にして2200円という魅力的な価格と、このラケットにもユニバーサルで使えると大胆な打ち出しは、普通のメーカーには実現できないことだからである。読者のほとんどは「PKウエスト」というメーカーのことは知らないだろう。なぜならそもそもメーカーというより、ラケットの「プロケネックス」やストリングの「ポリファイバー」などを扱う輸入代理店として活動しているからだ。

では、そこがなぜ天然グリッププレーヤーを製作・販売したのか？
代表の川端博志氏は、かつて日本の上位プレーヤーで、引退後に本格的にストリングヤーとして活動。それらの経験を活かして「株式会社PKウエスト」を設立し、現在では日本全国のテニスショップに幅広いネットワークを築いている。

その販売現場で耳にしていたのが「どの天然グリッププレーヤーにもブランドロゴが刻印されていて、ラケットのブランドとマッチしないのがイヤだと言うお客さんがいる」ということだった。

そこで、アジアに点在するラケット

トやグリップの生産拠点と密接な関係を持つ川端氏は「ならばブランドロゴのない天然グリッププレーヤーを自社で販売しよう」と考えたわけだ。そのオリジナル天然グリッププレーヤーは、天然レザーの握り感覚を知っている人にとって、とても懐かしいものであり、グリップテープを巻いた「ちよつとボヤけた感触」とは違って、「カチツツ」としているけど、しつとり感がある」のが印象的。

穴がわずかに残っているタイプで、使い続けても、表面がツルツルになりにくく、天然レザー独特のしつとりしたフィリングを長く保つことができるだろう。

一般的にグリッププレーヤーのセンター部は厚みがあり、巻くときに端を重ねながら巻くため、レザー両側端の裏側はテーパード状に削られて薄くなっている。

PKウエストの「プレミアムナチュラルレザーグリップ」は、その削

今日では確保しづらくなった 極めて上質な カーフスキンのみを使用。 刻印なしの無印状態は どんなラケットに巻いても自然だ！

PK West
『Premium Natural Leather Grip』



PKウエスト 『プレミアムナチュラルレザー グリップ』

- 品番 ○ ANG101BR
- カラー ○ ナチュラルブラウン
- サイズ ○ 長さ:1100 mm 幅:25.0 mm
最大部分厚:1.5 mm平均
- 素材 ○ カーフスキン
- 価格 ○ 2200円(税別)

www.pk-west.com

レザーに横縞が入っているかのように見えるのは、この商品自体があまりにスムーズなので、わざと影を付けたため。実際の商品表面はきわめて平滑であり、毛穴による微細なディンプル感が、手のひらとの一体感を高めてくれる。「無印」であるため、どのブランドのラケットにも使えて便利

まつおかし◎1960年生まれ。「テニスジャーナル」で26年間、主にテニス道具の記事を担当。試打したラケット2000本以上、試し履したシューズ数百足。おそらく世界で唯一のテニス道具専門のライター＆プランナー